

1. 各市総合計画による武庫川の位置付け等				備考
注：時間的制約下での作業であり、多少主観的判断も入っておりますのでご容赦下さい。 内容に間違い等がありましたらご指摘あるいは修正して下さい。田村				
市名	人口、土地利用等全般について	環境、循環型社会等	武庫川等の位置づけ	
西宮市	<ul style="list-style-type: none"> ・文教住宅都市を基調とする個性的な都市 ・1990年の426,909人をピークに人口減に転じている。1995年国調人口390,389人。 ・2008年人口予測、南部地域は人口減で380,000人、北部地域は将来の開発人口を見通し55,000人、計435,000人とする。 ・2005.8現在人口、南部地域420,410人、北部地域43,590人、計464,000人 ・武庫川沿いは中低層を主体とした住宅地として、良好な住環境の保全に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川の修景緑化に努める。 ・下水処理水の一部を再利用したせせらぎの回復、透水性舗装の普及による雨水の地中への浸透、市営住宅や学校などの新設等にあわせ雨水貯留施設を設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の保全と創造---夙川や武庫川の水と緑など、本市の恵まれた自然環境を保全しつつ、ウオーターフロント整備や河川などの緑地と市街地の公園、街路樹とを結ぶ緑のネットワーク化を進め、市民のレクリエーションの場としての活用を図る。 ・河川沿いや自然緑地が連続するゾーンを水と緑の軸としてそれぞれ都市軸を設定する。 仁川、有馬川、名塩川、武庫川水と緑の軸等設定。 ・雨水排出量の増大に対して、下水道・河川の排水能力の増強に努める。 ・1996年度市民意識調査による、市民に印象の強いもの、第4位「夙川、武庫川の河川沿いの景観」40.7%。 ・武庫川の抜本的な治水対策として武庫川ダム建設を関係する他市と共に国、県に要請する。 ・レクリエーション施設の整備、武庫川・夙川流域の一層の利用を促進する。 ・水辺環境の保全と活用、夙川上流から海辺を経て武庫川上流へとつながる回遊性と親水性の高いウオーターフロント整備に努める。 河川上流域の緑の保全に努め、河川水量を確保することにより自然の浄化能力の向上を図る。 ・仁川や百間樋川などの河川・水路の整備、有馬川の緑道の延長等市民が親しめる水辺空間の整備を推進する。 	第3次西宮市総合計画 1999～2008
尼崎市	<ul style="list-style-type: none"> ・統計手法による人口予測は減少し、2010年約42万～43万人であるが、指標人口として480,000人とする。 ・2005.7現在人口、460,246人 ・ほぼ全市が市街化されているが、工場等の転出による土地利用転換が見られる。 ・公園・緑地や河川・水路をはじめ、地域に存在する良好な地域資源を活用する視点に立った土地利用の促進に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の適正な水循環の回復をめざし、雨水利用、雨水地下浸透等について、公共施設や道路などで推進すると共に、民間での普及の仕組みづくりなど対策の促進に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が気軽にスポーツを楽しめ、子供が遊べる身近な場として、学校、公園、河川敷等の活用を促進する。 ・まちや地域のシンボルとして景観形成に寄与する巨樹や河川沿いなどのまとまった緑地、連続したアメニティ空間はコミュニティ形成など貴重な空間。 ・水や緑などの資源の連続性や広がり、ネットワーク化。 ・水路、ため池を親水空間、親水空間、遊水地として保全と活用に努める。 ・浸水対策については、長期的視点に立った総合的な治水対策を進める。 	第2次基本計画 2001～2010
伊丹市	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな生活空間人間性あふれる成熟社会をはぐくむ市民自治のまち ・2010年における人口は200,000人とする。 ・2005.8現在人口、193,308人 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参画による総合的な緑と水の都市づくりを行う。 ・水循環と水環境の再生---都市の中に水循環を再形成し、雨水の利用と地下水の涵養などを 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の都市づくり---猪名川、武庫川の二大河川と、その他の小河川、昆陽池、伊丹緑地、公園、街路樹、公共施設、民間施設の緑化推進とあわせた総合的な緑化を推進し、水と緑のネットワークの形成を図る。 ・猪名川、武庫川など河川空間を利用し 	伊丹市総合計画 2000～2010

	<p>・伊丹市の将来像第2位「緑が豊かで水辺も親しめる、自然を生かしたまち」</p>	<p>公・民の協力で進める。河川、水路、池などの水辺環境を保全し、市民が楽しみ、また守り手ともなれるように図る。 ・道路などの透水性舗装、学校・公園等の公共施設への雨水と雨水透水柵や貯留施設、調整池の設置を推進する。 ・生態系の保全と再生 ---ピオトーブ型公園・広場の整備をはじめ、生物に配慮した水路、河川、緑地、緑道など自然生態系の空間整備とネットワーク化に努める。</p>	<p>た公園緑地の整備を図る。散策道やサイクリングロードなどの整備を推進する。</p>	
宝塚市	<p>・人と自然がふれあう、心豊かな美しいまち宝塚 ・2010年度の目標人口は230,000人 ・2005.8現在人口221,072人 ・適正な土地利用の実現 ---南部市街地は、市街地周辺緑地への市街地の拡大を抑制し、地域の特性を生かし、多様な都市機能を備えた都市整備を目指す。 北部地域は、自然環境に配慮し、新都市の建設など、広域的視点に立って、多様な土地利用を目指す。</p>		<p>・都市景観の保全と創出---豊かな六甲・長尾山系の自然緑地、武庫川などの水辺空間及び北部地域に残されている田園風景を守り育てるとともに、これまではぐくんできた・・・良好な景観を保存、育成する。 ・水辺空間の整備---河川、水路及びため池の水辺と公園・緑地との連携を図り、親水性の高い水辺空間を整備する。 ・都市軸---武庫川の自然を保全し、武庫川を軸として、水辺を生かした特色のある土地利用と景観の形成を図るとともに、地震など、災害時における防災帯や避難路などの防災機能を持たせる。 ・下水道や河川の整備の充実---水質や水量の確保など、自然環境などに配慮し、潤いと親しみの持てる水辺環境の創造を目指し、水のマスタープランを策定の上、計画的な整備を進める。 ・武庫川沿いの住宅と工場が混在している地域の土地利用---武庫川の水際環境を生かし、既存の工場とその他の用途が共存する複合利用ゾーン。 ・魅力ある商業地の形成---宝塚駅前から宝塚南口駅周辺地区は、・・・本市の中核的な都心シンボルゾーンとして位置づけ、中心市街地商業等活性化事業及び観光プロムナードの整備などを進める。 ・浸水地域の早期解消、雨水の流出抑制、貯留及び浸透といった総合治水の考え方を取り入れた雨水施設の整備。 ・環境に配慮した河川改修や、ダム建設を含めた抜本的な治水対策が必要。武庫川ダムの早期整備。 ・観光基盤の整備---温泉利用施設の整備の推進など、武庫川の水辺と一体となった本市の観光文化ゾーンを目指し、観光プロムナードの整備や、武庫川マイタウン・マイリバー整備事業を進める。</p>	<p>第4次宝塚市総合計画2010年度目標年次2000年策定</p>
三田市	<p>・都市像---人と自然が輝くまち・三田 ・基本目標---心のふれあう田園文化都市</p>	<p>・循環型社会の形成---貴重な水環境の循環的利用の促進、資源の循環的利用の促進等。</p>	<p>・豊かな自然環境の保全---豊かな森林環境の保全と活用、清らかな水環境の保全と活用。 市域の約65%が森林。平成10年に全市</p>	<p>輝き三田21 第3次三田市総合</p>

	<p>・2011年(平成23年)目標年度人口134,000人(H13年推計113,800人、H18年推計123,300人)</p> <p>・2005.7現在人口は113,782人で推計を下回っている。</p> <p>・将来の適正規模を200,000人とする。</p> <p>・適正な土地利用の推進</p> <p>---中央・北部ゾーンの無秩序な開発を防止し、豊かな自然環境の保全と活用を図る。武庫川山麓ベルトやニュータウン周辺、既成市街地の緑地の保全が必要。</p>		<p>を都市計画区域に編入し、森林の保全を図る。造林を推進し、森林生産を振興するとともに、広葉樹の整備を促進する。治水対策とあわせて、多自然型工法の採用など、自然を生かした河川改修を促進する。水辺空間を生かした公園整備やため池の改修を推進する。<u>武庫川を憩いの空間として整備し、河川に親しむ機会の提供や自然とふれあう場として活用する。</u></p> <p>・花や緑にふれあえるまちなかの形成</p> <p>---市民に安らぎを与えている武庫川山麓ベルトの風致の維持や北摂三田ニュータウンの周辺緑地、武庫川河川緑地を保全する。<u>武庫川堤防の緑化など、緑のネットワークを形成する。</u></p>	<p>計画2002年～2011年</p>
--	---	--	---	----------------------

課題とコメント(田村)

総合計画による将来人口予測が短期間に推計と現況とで乖離をきたしている。尼崎市、西宮市では予測に対し増、三田市では減になっている。特に武庫川の上中流域にあたる三田市や西宮市北部地域、宝塚市北部地域の将来土地利用動向、将来人口の見極めと武庫川流域の総合治水計画との整合性の検証が必要と考える。

また、山林や緑地の保全と適切な管理による流出減少効果、市街化調整区域での大規模開発計画の将来動向(例えば宝塚新都市など)、市街化区域未開発地区や未利用地の開発動向、市街地内の大幅な土地利用転換動向、市街化区域を含めた造林、緑化による流出抑制効果、などについても時間的制約の範囲内で詳細な資料と適切な判断に基づく総合治水の検討が必要と考える。(フローB、C関連)

各市とも総合治水の一環として、雨水貯留利用、雨水の地下浸透、地下水涵養、下水処理水の一部再利用等水循環に対する関心は強い。しかし、高潮、津波による浸水への対策は若干記載が見られるものの下流市街地部における超過洪水対策については殆ど配慮されていない。今後、基本高水の検討と並行して検討が必要であろう。(フローB関連)

各市の総合計画では武庫川ダムの建設への要請、促進、利用などが記載され、治水やまちづくりでの関連が強い。今後、流域委員会による総合治水計画検討内容と各市総合計画改定時の整合性確保が必要と考える。

各市の総合計画による武庫川の位置づけは、三田市、宝塚市では中心市街地を貫流するため市街地整備、土地利用、観光商業振興、景観整備等から重要な位置にあり、河川空間と景観、文化歴史的脈絡の活用、河川利用計画と市街地整備・都市整備の密接な連携が期待されているし、相互扶助的検討が必要である。尼崎市、伊丹市、西宮市等では市域の重要な公園緑地として、また市街地景観構成や周辺地域の歴史文化資源とのネットワーク構成等、重要な空間要素としてまた連携要素として位置づけられている。

そのほか河川整備の影響、効果、市街地サイドの計画による河川への影響など相互の計画内容の調整と相乗効果策の検討が必要である。(フローC、D関連)

以上、各市総合計画策定時から4～6年経過しており、現状動向との差異が大きな要素や指標に関しては武庫川総合治水計画立案への影響が大きいため、立案時における各市へのヒアリングや情報交換等が必要不可欠と考える。総合治水WTやまちづくりWGでの情報共有化や意見交換を是非ともお願いしたい。

2. 各市都市計画マスタープラン等による武庫川の位置付け等				備考
注：時間的制約下での作業であり、間違い等がありましたらご指摘、修正して下さい。また、三田市については資料入手出来なかったため中心市街地活性化基本計画で代用しました。田村				
市名	現況と課題	武庫川の位置づけとまちづくり等	武庫川と総合治水等	
西宮市	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年目標年次 ・都市軸の設定---水とみどりの軸 ・昭和12年(1937年)武庫川沿い等に風致地区を指定。 ・武庫川河川敷に都市計画公園指定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市空間整備方針---武庫川水とみどりの軸(臨海地域、南部地域、北部地域) ・水とみどりの整備方針---夙川上流から海辺を経て武庫川上流へとつながる回遊性と親水性の高いウォーターフロント整備に努める。水とみどりの軸となる夙川や武庫川などの緑地と、公園街路樹などとの緑のネットワーク化をはかり、市民の散策や憩いの場あるいは動物たちの移動空間として、また災害時の避難路や延焼遮断帯としての機能を高める。 ・都市景観の形成方針---武庫川、夙川などの豊かな自然は、都市の背景・ランドマーク・骨格として空間を特徴づけるとともに、眺望景観としても重要であり、こうした自然を保全・活用していくことが課題である。都市の骨格である主要な道路、河川の修景緑化に努め、季節感の感じられる快適な公共空間として整備する。 ・地区別特記 <ul style="list-style-type: none"> 鳴尾地区---武庫川河川敷緑地、未共用区間あり。武庫川の松を中心とする並木景観。武庫川の水とみどりの軸の保全・育成。甲子園六湛寺線、旧国道の生活文化軸との交点。武庫川沿いを防災緑地軸とする。 瓦木地区---武庫川河川敷緑地、未共用区間あり。武庫川の水とみどりの軸の保全・育成。武庫川沿いはゆとりとうるおいのあるまち並みの形成を図る。山手幹線生活文化軸との交点。武庫川を中心とし、地区内の公園や生産緑地などをネットワークする。武庫川沿いを防災緑地軸とする。 甲東地区---武庫川河川敷緑地、未共用区間あり。仁川や武庫川の水辺空間、自然景観水の保全。ゆとりとうるおいのあるまち並みの形成。百間樋川沿いを水とみどりの軸として位置づける。武庫川や仁川と地区内の公園や生産緑地などをネットワークする。武庫川沿いを防災緑地軸とする。 塩瀬地区---水とみどりの軸となる武庫川や名塩川沿いは自然環境を保全し、ゆとりとうるおいのあるまち並み形成を図る。生瀬地区の六甲山グリーンベルト事業を促進する。武庫川渓谷の自然、蓬萊峡、太多田川、名塩川などの水とみどりの軸を中心とし、主要公園や自然レクリエーション地などの拠点を結ぶネットワークの形成。 有馬川、船坂川などの水とみどりの軸、金仙寺湖、鎌倉峡、白水峡と地区内の公園などみどりの拠点を結ぶネットワークの形成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市防災の方針---治水対策の推進。武庫川における水害を防止するため、河川での対策だけでなく、流域の保水・遊水機能を高める貯留・浸透施設の整備などさまざまな治水対策を行う「総合的な治水対策」について、国、県と協力して推進する。 	西宮市の都市計画に関する基本的な方針 2002
尼崎市	<ul style="list-style-type: none"> ・猪名川や武庫川の上流地域における宅地開発などにより、河川流域の遊水・保水能力の低下。治水対策をより一層促進する必要がある。低地盤地域への洪水、高潮対策。 ・「水のあるまちづくり基本計画」を 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市環境に関する方針---緑のネットワークの形成。武庫川や猪名川などの河川敷を緑の軸として整備し、交流空間と良好な景観形成を図るコミュニティ回廊などとネットワークを形成する。貴重な自然が残る武庫川などにおいて、自然環境の保全と、遊機能導入および親水性の向上を図る。 ・地域別構想 <ul style="list-style-type: none"> 阪急武庫之荘駅周辺地域---武庫川や六樋水系と公園緑地を結ぶことにより、水と緑に囲まれたうるおいのあるまちをめざす。土地利用方針、武庫川沿いは水辺や自然環境を活かした公園や緑地など、親水軸としてのレクリエーション機能を充 	<ul style="list-style-type: none"> ・猪名川、武庫川の総合治水対策の促進。 ・庄下川など河川の流下能力を補完する地下調節池の検討。 ・透水性舗装、雨水貯留池など雨水流出抑制施設の設置、市域内における保水・遊水機能の向上など総合的な治水対策を促進する。 	尼崎市都市計画マスタープラン 1997

	<p>推進する。 ・目指すべき都市空間---武庫川、猪名川など河川沿いにおける親水性のあるレクリエーション機能が連続した快適空間を親水軸とする。</p>	<p>実する。六樋や源太郎橋周辺の拠点整備。武庫川や農業用水路など水辺を親水空間として整備。 JR立花駅周辺地域---武庫川沿いは水辺や自然環境を活かした公園や緑地など、親水軸としてのレクリエーション機能を充実する。 阪神武庫川駅周辺地域---本地域のほとんどが海面下であるため、高潮や津波など水害による危険性が高く、予防機能の強化を図る必要がある。蓬川や武庫川沿いの緑地整備を進め、うるおい豊かでやすらぎのあるまちをめざす。武庫川沿いは親水軸としてレクリエーション機能を充実する。 臨海西部地域---水際線を活かした高アメニティ環境の実現、生活空間の創出など土地利用転換を図る。高潮や洪水などの水害を防ぐため、地盤の嵩上げや排水施設の機能強化を促進する。 臨海南部地域---海に囲まれた水辺環境を活かし、市民が安心して遊び体験できるアメニティ機能がまちをめざす。武庫川下流処理場の上部を覆い、公園緑地としての活用を図る。</p>		
<p>伊丹市</p>	<p>・目標年次 2010 年 ・都市づくりの目標---ともに生きともに育む誇りと愛着をもてるまち伊丹</p>	<p>・自然アメニティ軸---武庫川親水軸 ・中央グリーンライン---昆陽池公園、瑞が池公園、緑ヶ丘公園等で構成 ・北部グリーンライン---天神川、天王寺川等の河川緑道で構成 ・六甲山系や長尾山山系を背景に、猪名川、武庫川等の河川及び伊丹緑地や昆陽池・瑞が池・緑ヶ丘公園などの自然環境、旧伊丹郷町、旧西国街道、多田街道、有馬道、中山道などの歴史的道すじや文化財などにより構成される都市景観。 ・地域別構想---西北部地域 <u>水と緑を活かした、美しくのびやかなまちづくり武庫川、天神川、天王寺川などの河川、黒池、西池などのため池、生産緑地などによる水と緑のネットワーク形成。</u></p>	<p>・猪名川、武庫川などの河川に対する総合的な治水安全度の向上を図る。 ・雨水貯留施設、雨水ポンプ場の整備。調整池の確保、透水性舗装の活用。ハザードマップの作成。</p>	<p>伊丹市都市計画マスタープラン 2004</p>
<p>宝塚市</p>	<p>・人と自然がふれあう、心豊かな美しいまち宝塚 ・都市計画コンセプト---庭園都市、居住文化創造都市、芸術リゾート都市 ・都市づくりの方向---清らかな水と水辺の都市空間づくり</p>	<p>・目指すべき都市構造---水と緑のネットワーク、武庫川回廊の形成、河川・水辺アメニティの形成。 ・市域の中央を流れる武庫川に象徴される豊かな自然。水網都市ともいえる特徴。 ・南部地域の都市構造---六甲山地、長尾山地の山並みと武庫川を骨格(シンボル軸)とし、市街地内の中小河川、歴史街道、生活に密着した道路等を歩行者の快適な空間(アメニティ軸)として整備することによる、水と緑と歴史・文化を活かした水と緑のネットワークの形成。 河川・水辺アメニティ軸、歴史街道アメニティ軸。 ・都市拠点の構成、武庫川回廊---宝塚駅前から市域南端部に至る武庫川両岸周辺地区については、武庫川の水辺を活かして、広域から人々が集まり界限性が高い、賑わいある都市型のリゾート拠点として、本市の中核的な都市活動機能(観光、商業・サービス、工業)の集積を図る。 宝塚駅周辺及び対岸も含めた武庫川の両岸は、温泉と宝塚歌劇で代表される観光プロムナードが構成された「都心シンボル」とし、魅力と賑わいのある観光・商業機能の集積を図る。 武庫川南端部は、既存の工業系用途と共存する「複合利用ゾーン」に位置づけ、武庫川水辺空間を活かした魅力ある都市空間の創造を目指す。 ・北部地域の都市構造---水辺環境と山林の一体的保全と整備に努める。 水と緑の「アメニティ軸」、武庫川渓谷アメニテ</p>		<p>たからづか都市計画マスタープラン 2002</p>

		<p>イ軸。武田尾温泉や桜の園の保全・充実などとも連携し、親水空間や自然観察の場の確保、遊歩道の整備を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域別都市像 <ul style="list-style-type: none"> 地域---武庫川回廊沿い複合利用地区。仁川・小仁川アメニティ軸、川西川アメニティ軸、御所下水路アメニティ軸等。 地域---武庫川回廊、都心シンボルゾーン、観光プロムナード、シビックゾーン。西宮街道アメニティ軸、逆瀬川アメニティ軸、支多々川アメニティ軸、亥の谷川アメニティ軸、塩谷川アメニティ軸、桜のアメニティ軸。 地域---観光プロムナード、有馬街道アメニティ軸、荒神川アメニティ軸、大堀川アメニティ軸、後川アメニティ軸、惣川アメニティ軸。 		
三田市	・多様性に満ちた三田らしい都市の顔づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・田園文化都市にふさわしい憩いの場づくり---どちらかという街裏的な場所になっている武庫川沿いの緑水空間や市街地を縦横に走る水路の活用など、家族が一日楽しく快適に過ごすことのできる自然環境豊かな憩いの場を形成する。 ・中心市街地の整備方針 <ul style="list-style-type: none"> 武庫川を中心としたまちづくり---中心市街地の中央部を横断する武庫川を三田の風土・歴史・文化の象徴として認識し、その武庫川を中心に周辺地域を、三田駅前周辺地区、本町通り周辺地区、シビックゾーン地区に区分し、それぞれの特性を活かしたまちづくりの推進により、個性的で多様性に富んだ街並みと武庫川を結節点とした人の回遊性を生み出す。 緑のネットワークの形成---武庫川沿いを親水空間として整備をすすめるとともに、武庫川沿いと周辺地区を緑豊かな街路や公園、広場等で連結することにより、緑のネットワークの形成を図る。 		中心市街地活性化基本計画概要より
篠山市	・目指すべき都市像---住みたいまち ささやま-人と自然の調和した田園都市。緑住文化都市ささやま			篠山市都市計画マスタープラン素案2003年

課題とコメント(田村)

西宮市、尼崎市、伊丹市、宝塚市、三田市では武庫川を都市構造上の重要な軸として位置づけている。特に西宮市では、武庫川水とみどりの軸として、宝塚市では武庫川回廊として、三田市では風土・歴史・文化の象徴として位置づけ、都市の中心骨格、都市活動軸等として利活用、資源の保全、相互依存といった多目的の活用が計画されている。

また、殆どの都市で武庫川の自然環境やレクリエーション空間と周辺の自然、文化、歴史資源とのネットワーク化による多様で快適なまちづくり計画が提唱されている。

武庫川の南部高水敷は沿川各市の都市計画公園や緑地として計画決定されている。西宮市では沿川の緑地を含めて風致地区指定がなされ貴重な都市景観としても位置づけられている。

武庫川の支流についてもその多くは、水とみどりのネットワークに位置づけられている。

また、現地調査の中で、宝塚市南部市街地や三田市の武庫川沿川では土地利用転換や中高層建築活動が活発化しつつあり、武庫川の景観への影響や環境のあり方等も都市側の問題としてだけでなく双方で十分検討することが必要である。今後、景観法においても景観重要公共施設の整備等との関連が課題となると思われる。

各市の都市計画の見直しは概ね5年毎に行われているが、阪神間都市計画については昨年度見直され次回見直しは4年後である。現在用途地域の見直しが準備中で平成18年度に見直しされる予定である。当然各市の人口動向や産業動向と連動して見直されるものであり、当委員会としても流域や氾濫域の各市の将来市街地と土地利用の動向を把握した上で議論する必要があると考える。

また、同時に武庫川河川区域の親水空間等の利活用方策、沿川市街地の都市整備と河川空間の有効かつ調和の取れた活用等、都市と河川両者間のより一層の相互調整、協働化が必要と考える。(フローC, D関連)

これまで基本高水の議論に集中してきたきらいがあるが、今後の委員会の開催予定等を勘案すると、フローC, D関連の議論を積極的に進めていくことと、そのためのデータ収集が必要であると痛感しています。

また、提案として武庫川の利活用策の一つとして都市の多様な活動とリンクした地域拠点や交流拠点さらには上流から下流域にいたる地域交流、情報交流の拠点づくり等を今後の委員会で提案したいと考えています。(例えば武庫川かわのえき)

以上、1. 各市総合計画による武庫川の位置づけ等、2. 各市都市計画マスタープラン等による武庫川の位置づけ等と課題及びコメントについてまとめましたが、本来まちづくりWGで検討したうえで本委員会で議論することが必要であると思います。今回は私の作業時間の制約と委員会や各種WT, WG開催時に合わせ機会があれば意見表明していく方が良いとの判断で提出しましたことをお断りします。

今後まちづくりWGの中で再度協議したいと思っています。